

4月の植物

ルリハコベ (サクラソウ科、ルリハコベ属)

学名 : *Anagallis arvensis* L. f. *coerulea* (Schreb.) Baumg.

佐賀県では東松浦半島と周辺の島々に見られる海岸性の植物。海岸性ではあるが厳しい岩場や砂浜というより人家に近い港や道端などでよく見るように思われる。ハコベと名がついているもののハコベの仲間(ナデシコ科)ではない。ハコベの様に地上を這い、暖かい春の訪れとともに草間に可憐な花をのぞかせる様から、身近で親しみあるハコベになぞらえて名がつけられたのだろうか。今回撮影した場所も、周囲はオランダミミナグサ、ホトケノザ、ヤエムグラといった日常よく見る植物が多いのに、その中に紛れてルリハコベが咲いていた。帰化種であるとのこと。

花期は3～5月。花は1cm程度で、葉腋から2cm程度のびた花柄の先につく。合弁花なので花が落ちるときは5枚に見える花弁と5本の雄しべがすべてくっついた状態でスッポリ抜ける。ひとつに繋がった花弁の中に大変鮮やかなグラデーションの変化がある。花弁の腹はルリ色、その根元は赤紫色になり、花弁が合着した部分は白色になる。そこから伸びた花糸(雄しべの糸状の部分)の付け根は白だが、先端に向かって徐々に赤紫色になる。花糸から伸びた毛も赤紫色。そして花糸の先には鮮やかな黄色の葯がつく。(寺村朋輝)



2017年3月19日 唐津市鎮西町波戸岬